

## 庭園文化を通じ、国や民族・宗教の壁を越えた空間造りを

会員厚生委員会委員 庭造り(株)梅鉢園代表 梅野星歩さん



私共は天王山の麓にある長岡京市を拠点に活動する庭師集団です。言うまでもなく

京都が日本を代表する建築・庭園を有する地域ですが昨今は社会構造の変化により、維持継続や存在自身すら危ぶまれる機会も残念ながら増えています。このコロナ禍以前より「伝統とは?」「文化とは?」とまさに何が「不要」で何が「不急」なのか我々自身も社会的においても問われる場面が増えていきます。また自然と密接な関係にある職種ですので、昨今の豪雨災害、災害級の猛暑、台風、地震も含め気候の影響を大きく受けています。関西地域では平成30年に発生した台風21号の被害が記憶に新しく同年に発生した大阪北部地震と共に甚大な被

害を受け自然の猛威と対応の重要性を改めて考えさせられています。

古来より、都市化が進むと利便性の向上と共に災害に対しての脆弱さも伴うという事を様々な歴史が物語っていますが、現代においても地域のランドマークである寺社仏閣などは例外ではなく、災害への耐久力が課題となっています。また人口減少等により千年単位の歴史を持つ場所であっても次世代へどう「継承」するのか?と日本社会が抱えている課題の縮図となっており、SDGsと掲げながらも自分自身はどのように環境を整えていくのか試行錯誤が続いています。文化財として保護されたり資金的に余裕があるのが理想ですが、現状では知恵を持ったプレーヤーが集うプラットフォームに活動しています。

### ① 価値を再認識

個の時代におけるパブリック空間をどのように機能させていくのか、現代人のライフスタイルに適したソフト機能を庭園などのハードにどう組み込んでいくかという視点でワークショップや勉強会などの企画・提案・運営も行っています。

### ② 的確に発信

令和元年に米国NYにて庭の講演をする機会を得たため日本の自然災害や現況を少しでも発信できればとの思いで渡米いたしました。丁度、国連会議が開かれ、スウェーデンの女子高校生で環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんがスピーチし注目を浴びていました。物々しい警備の中、訪れたワールドトレードセンター跡地の9/11メモリアルミュージアムでは世界で起きている戦争やテロ・難民・貧困などの現状に直面し戦後75年の平和について深く考える機会となり、発信の目的よりも大きな宿題を抱えて帰国する事となりました。現在、世界各地でおきている「Black Lives Matter」運動により人種差別や国を二分するような議論が巻き起こっています。世界で起きている事がより身近な問題として課題になりました。

### ③ 自分のできる事から取り組む

あまりにも大きなテーマですので果たして自分に何ができるのだろうかと考えていましたが、総論的な理想論や現況への反対意見だけで留まることなく自分の身の丈に合わせて取り組むにはと暗中模索している

中、9/11メモリアルミュージアムにビルの中、9/11メモリアルミュージアムにビルの倒壊から被害を免れた「Survivor Tree」という木がありエビデンスとして重要な役割を担っている事を知りました。日本で言うと陸前高田の一本松のような存在でしょうか。そしてその木を通じ平和活動が行われていると聞きそれなら庭師として日本人としての意義があるのではと庭園文化を活かした活動をする事となりました。

私共は非常に小さな存在で外交や経済、安全保障などに直接寄与することはないかと思いますが、建築や庭園などの文化力を通じ人種や民族宗教の壁を越える共通言語のような空間造りを日々模索しています。

